

1 自己評価及び外部評価結果

作成日：平成24年4月14日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800113		
法人名	株式会社 ホームケアサービス		
事業所名	グループホーム三苦駅前		
所在地	福岡市東区三苦4丁目8番1号		
自己評価作成日	平成24年3月16日	評価結果市町村受理日	平成24年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成24年4月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年4月1日オープンした高齢者複合施設の2階部分にあるグループホームです。東区土井に本社を構えて、他事業所には介護付有料老人ホーム、住宅型有料老人ホーム、グループホーム、小規模多機能型居宅介護があります。協力病院は東区青葉にある原土井病院で、往診・受診・入院などで連携を図っています。食事は毎食スタッフの手作りで入居者の皆様にも参加して頂きながら調理をしています。認知症の進行を抑え、日々の役割を大切に生活とその人らしい人生の支援をしたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム三苦駅前”には2つのユニットがあり、ユニットそれぞれの特色を表している。1つのユニットは壁の装飾が立体的で、手抜きをしない職員の姿勢が伝わってきた。もう1つのユニットは、玄関に職員手作りのバス停が置かれていた。帰宅が困難な方で、「バスに乗って帰りたい」と言う希望がある方のために、外出支援も行いながら、少しでも安心できる方法を検討し、職員手作りのバス停が作られた。バス停に関するご本人の反応は見られなかったそうだが、両ユニットの職員全員がお1人お1人のご利用者の生活歴を大切に、常にご本人本位の関わり方を考える姿勢が伺えた。季節の旬の物を食べて頂くために、職員自らが志賀島に新鮮なわかめを採りに行き、皆さんに美味しく食べて頂いたり、「お鍋が食べたい」と言うご利用者の声を聞き、土鍋とコンロを用意して、ご利用者と一緒にお鍋を作られた。少しでも充実した日々が送れるように、洗濯物たたみや配膳準備、調理などの役割を担って頂き、習字が得意な方には毎日の献立のお品書きをして頂いている。開設から1年、職員の入れ替わりも経験してきたが、管理者を中心に、今後も更なるチームワークを作っていくための検討が続けられているホームであった。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	十分ではないが共有し実践できるよう努めている。	「高齢者の視点に立ったチームケアを通じて、日本の高齢社会に貢献します」という会社の理念を受け継いでいる。ご利用者の自立支援を考えながら、一人ひとりのニーズに応えられるよう職員で話し合い、答えを見つけようとする姿が職員全員の姿勢に見えてきている。	ご利用者や職員の入れ替わりもあり、日々の業務で精一杯な部分があったとの事。開設2年目に入り、今後は更に理念を意識し、行動していく事(振り返る事)を大切にすると共に、チームケアのあり方を職員全員で検討していきたいと考えられている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と地域の商店での買い物や散歩に行く事や美容室を利用してる。	ホーム開設前(地鎮祭の時)から、地域の町内会長等に開設のご挨拶に伺った。開設後も、ご利用者と散歩中に地域の方に挨拶し、地元のお店で買物をしたり、地域の神社祭りにも参加している。運営推進会議で提案頂いた“秋祭り”等も他施設と合同で行い、地域の方と楽しいひと時を過ごす事ができた。	開設から1年が過ぎ、今後は、より積極的に地域交流を図っていく予定である。公民館活動の情報も頂いており、牛乳パック作りや救命講習にも参加予定である。幼稚園や小中学校とも交流を深めていきたいと考えられている。(外部評価13も共通)
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座の実施などで貢献したいという構想はあるが実践出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内での活動報告、入居状況等を毎回報告し参加して頂いた皆様より、意見、要望、アドバイスを頂き改善していくように努めている。	23年4月に開設後、5月には1階の小規模と合同で第1回目の会議が行われ、ご利用者、家族、町内会長、民生委員、地域包括の方が参加して下さい。家族の方は介護の現状を語って下さり、地域の方からは年中行事のご案内を頂き、地域包括の方からは権利擁護などの各種サービスの説明をして頂いている。	現在、家族の参加が限られている。今後も引き続き、会議の開催時間や曜日なども含めて検討を続け、他の家族にも呼び掛け、1人でも多くの方に参加頂ければと考えている。まずは、家族の参加可能な曜日等の希望を伺う予定にしている。(外部評価7も共通)
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告時、運営推進会議の中での連絡や報告しか出来ていない状況です。	3月7日に福岡市の監査を受け、勤務時間等のアドバイスや改善内容の指導を頂いた。申請時等には管理者が区役所を訪問し、挨拶や報告を続けている。入居等の相談がある時は電話しており、担当者の方が親身に相談に応じて下さっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロマニュアルを作成し職員全員がいつでも目にする事が出来るようにし、内容については研修を行い把握に努めた。	玄関の施錠をしないため、ユニットから出てエレベーターを降り、1階から外に出られる可能性があることを家族に話し、外部徘徊資料作成の許可も頂いている。ベットから降りられ、転倒の可能性がある方には、職員が寄り添いを続ける等、常に“拘束をしない”事を職員全員で共有し、実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員が研修報告を提出し、他職員に報告し、報告書を回覧する事で学ぶ機会を持った。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員に学ぶ機会を設けられなかったのが今後の課題としたい。	成年後見人を利用されている方がおられる。後見人の方(司法書士)との意見交換も行われ、後見人の方にも認知症の病状説明や暮らしぶりを報告している。管理者が制度に関する外部研修を受け、職員に伝達しており、運営推進会議の場でも制度の説明が行われた。	今後、制度の説明を家族に行っていきたいと考えており、パンフレットの準備もしていく予定である。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約書、重要事項説明書を読み合わせ内容について疑問や質問を受け説明し、理解して頂けるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	充分とは言えない。	ご利用者から「刺身が食べたい」との要望があり、本社へ相談し、敬老会で刺身の盛り合わせを提供し、皆さんに喜んで頂いた。「お鍋が食べたい」と言う声も聞かれ、土鍋とコンロを用意し、ご利用者と一緒に鍋を作られた。「外出させてほしい」と言う家族からの要望も多く、外出支援を行うと共に、外出報告もする予定である。	ご利用者、家族の意見を十分に聞けていないと考えられている。何でも言いやすい環境を作るため、まずは家族に運営推進会議への参加を呼び掛けていく予定であり、アンケートを行い、参加しやすい曜日等を把握していく予定にしている。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談を行い意見、要望を聞いていたが最近では実施出来ていないので機会を設け実施していきたいと思っております。	新入社員導入研修で「食事の買い物が大変である」と言う意見があった。週2回、買い物日を設け食材を購入しているが、業者による配達に変更した。職員の個性を見極めながら、長所を伸ばし、より多くの意見を聞いていく予定であり、職員が定着するよう、意見や提案は随時検討し、反映していきたいと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績が反映されるよう考え毎年改善されてきている。職員が働きやすく長く勤めていける事を望んでいる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	出来ている。	原則、管理者が採用時の面接を行っており、第一印象を大切にしながら、優しいお人柄でチームワークが取れることを大切に採用している。個人面接では悩みや不満も聞いており、「仕事が得意」「裁縫ができる」「畑仕事が好き」など、それぞれの職員の特長を發揮して頂いている。希望に応じた勤務調整も行われている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	取り組んでいるがまだ不十分である。	職員の入れ替わりも経験しているが、管理者は「利用者の立場になって考えて欲しい」「話し方や態度に気をつけ、業務優先ではなく利用者優先で考えて欲しい」と全職員に伝えている。ご利用者本位の職員が多く、ご利用者を中心にしたケアに努めている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修へは勤務の状況に合わせ参加できるよう努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会への参加がまだ出来ておらず同業者との交流の機会を作れていない。		
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族との面談、担当ケアマネ、ソーシャルワーカーからの情報を得て関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時点で聞き取りを行い、入居が決定した時に要望等聞き関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	色々なサービスも含め考えるよう努めています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事、洗濯など協力してもらえる部分は一緒に行うよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診、外出、外泊などで協力して頂き、ご家族との関係も大切にしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が継続できるよう支援していきたいです。	ご本人の希望で、以前のデイケアに通われている方もおられ、送迎時には体調などをデイの職員に報告している。家族が「ご本人に年賀状を書かせて欲しい」との事で、できない所をお手伝いし、知人等に年賀状を出す事ができた。友人と温泉旅行に行かれる時は内服の留意点等を説明し、楽しい旅行をすることができた。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員と仲良くとはいかないが職員が間に入ることでご利用者同士の関係を築いている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	オープンし1年足らずなため、まだ行えていない。		
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望、意向の把握に努めてはいるが、その思いに対する対応は十分ではない。	入浴時やお部屋での会話の中で意向を把握し、計画見直し時にも、ご本人と家族に希望を確認し、計画に反映させている。意向の把握が難しい方は生活歴を伺い、乗り物が好きだった方には外出支援を行うと共に、帰宅が困難な方には、職員がバス停を作成し、ユニット玄関近くに置いて対応したユニットもある。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や関係者から聞き取り情報収集した。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察記録、バイタル測定、言動などで把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報収集は職員に実施しているが殆ど計画作成担当者が計画しているため、チームでの作成とはなっていない。	計画の評価や見直しは、管理者と各担当者が中心に行い、ミーティング時に他の職員からの意見も聞きながら、管理者(計画作成担当者)が介護計画を作成している。計画には、洗濯物をたたむ、調理、絵を描く、買い物などの役割や趣味等と共に、リハビリの視点も大切にされている。	“家族や友人と外出する”という楽しみも計画に盛り込まれているが、介護計画を作成する中で地域との関わりが不足していると感じている。サークル活動等の社会資源も活用していき、更なるご本人本位の計画を作成していく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有はできているが介護計画の見直しには十分活かされていない。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状取り組めていません。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今から取り組みたいです。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に添い適切な受診ができるよう努めています。	3名の看護師(兼務)が勤務しており、異常の早期発見、早期対応ができています。定期的な往診もあり、緊急時にもすぐに対応できる体制が整っている。原土井病院から往診(2週に1回)があり、看護師等が受診同行し、薬の指示も頂いている。それ以外の受診は家族が同行し、家族との受診結果の共有もできている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りに看護師も参加し状態の把握を行い介護職と連携を図っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会に行き病院看護師より状態説明を受けている。退院の時期についても病院連携室などと連絡を取りながら行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今からの取り組みになります。	ご本人や家族の希望を重視し、可能な限り、最期まで支援していく予定にしている。23年度は“看取りケアに対するアンケート”を家族と職員に実施し、「最期はここで・・・」と言う方もおられた。その後も、家族との面会の都度、現在の状況を管理者が説明し、ご本人や家族の希望を伺うようにしている。	開設以来、看取りケアの経験はないが、「最期までここで」と言う方も多く、医師とも連携していく予定である。職員のアンケート結果からも、終末期ケアへの不安の声も聞かれており、研修の機会を作る予定にしている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まだ十分ではない。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	出来ていない。	23年12月、職員とご利用者と一緒に、全館で昼間想定総合避難訓練を行った。消防機器メーカーの方も立ちあわれ、水消火器の消火訓練の指導もして下さった。「消火器の位置の把握を全員がしておくように」などの、具体的なアドバイスを頂いた。	災害時に備えて備蓄の検討を行う予定であり、消防署の方との訓練も検討していきたいと考えられている。
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分な対応とはいえない。	管理者は「利用者の立場になって考えて欲しい」「話し方や態度に気をつけ、業務優先ではなく利用者優先で考えて欲しい」と職員に伝えている。日頃から、言葉遣いやケア時の羞恥心への配慮も続けているが、馴れ合いの言葉や語尾が強くなる時もあり、職員間で注意をしている。	ゆとりがない時に業務優先になり、語調が気になる時もある。職員の良い所も引き出しながら、職員の意識向上に努めていく予定である。名前を呼ぶ時に“～ちゃん付け”になる時もあり、言葉遣いや呼び方の振り返りも行っていく予定である。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけているが充分ではない。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしたいと思っているが充分とはいえない。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	心掛けているが十分ではない。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や調理など役割をもっていたりしている。	ホームで3食作られている。食べたいものを把握し、栄養バランスも考え、季節感ある食材を使用している。料理に応じて食器も工夫されている。ご利用者に味見をして頂いたり、調理の下ごしらえなども手伝って頂いている。昼食時は、職員が同じテーブルで食事を摂っており、楽しい話題作り心がけている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し状態を把握している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い必要に応じて支援しています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し声掛けや誘導をおこない自立にむけた支援を行っています。	布パンツで生活できるよう検討が続けられ、排泄時間の記録を行い、個別の誘導を行っている。入居前におむつを使用していた方も、その方に応じた誘導を行う事でパッド内の排尿が減り、パッドの使用量が減った方もおられる。排泄時の見守りも、ご本人の視野に入らないように見守りを行う等、羞恥心にも配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動を実施しヨーグルトや牛乳など乳製品を取り入れています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが必要に応じて変更し対応しています。	個々のペースで入浴されており、入浴時は歌を唄い、会話も楽しまれている。冬至には柚子湯を楽しまれ、皮膚疾患がある方には専用の石鹸を使用している。羞恥心に配慮し、希望に応じて同姓介助も行われている。入浴を拒まれる時は、無理強いをせず、時には他のご利用者に協力して頂き、声をかけて頂いている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーション等に参加し夜間安眠できるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と連携を取り必要時は説明を行う事で理解に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	充実した日が送れるよう洗濯物たたみや配膳準備など役割をもって頂いている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそってすぐに対応はできていない。	気候の良い時には、日常の散歩や買い物を楽しまれている。海の中道海浜公園のあじさい見学、志賀島や福津市の西郷川花園のコスモスを見学し、ご利用者もとても喜ばれた。「洋服を買いに行きたい」「髪を染めに行きたい」との希望と一緒に外出したり、自宅に洋服を取りに行くため、家族と出かけるなど、個別支援も行われている。	外出を喜ばれる方も多く、外食も楽しまれた。外出は、家族からの要望が多い内容でもあり、今後も引き続き、日々の生活の中で散歩や外出を増やしていきたいと考えられている。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の承諾を得ている方は小銭程度の所持をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるよう室温調整を心がけています。	リビングにはソファやテーブルがあり、ご自分の好みの場所で過ごされている。ご利用者が書かれた絵や家族が撮られた写真などを飾り、話題作りにされている。室温調節を行うと共に、トイレがホールの中央にあるので、掃除を徹底するなど、臭気には十分注意している。ご利用者の視点に立ったレイアウトや飾り付けが行われている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に思い思いの場所で過ごして頂いています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・ご家族と相談しながら心地よく過ごせる居住空間を作られています。	ご自分の部屋と言う認識が難しい方には、扉に目印を付けている。タンス、テーブル、椅子など、自宅で使われていたものを持参されており、写真、絵画などを壁に貼っている。家族の方が、ご本人のお好きな壁飾りをして下さっている方もおられ、お位牌をお部屋に置かれている方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床材にクッション材が入っており転倒された時の衝撃が少ないよう配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名：グループホーム三苦駅前

作成日：平成 24 年 5 月 7 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	ご利用者や職員の入れ替わりもあり、日々の業務で精一杯な部分があった。開設2年目に入り、今後は更に理念を意識し、行動していく事(振り返る事)を大切にすると共に、チームケアにあり方を職員全員で検討していきたい。	事業所の理念作りを行う。	理念に基づいたケアを実践していくため、自分たちで考えた理念であれば、より身近に、意識し行動できるのではないかと考え事業所の理念作りを職員全員で取り組みたい。	12 ヶ月
2	2	開設から1年が過ぎ、今後はより積極的に地域交流を図っていく為に、町内の行事や活動にも出来る限り参加していきたい。	施設の行事には地域の方々が、地域の活動、行事にはご利用者や職員が参加し垣根を越えた交流が出来るように取り組みたい。	5月より公民館活動に参加予定。少しずつ地域に出たいと考えている。	6 ヶ月
3	28	“家族や友人と外出する”という楽しみも計画に盛り込んでいるが、介護計画を作成する中で地域との関わりが不足している。サークル活動など社会資源を活用していきたい。	ホーム内だけの活動にとらわれず、家族、地域等の社会資源を活用し、多職種の意見が取り入れられた介護計画を作成していく。	5月より公民館活動に参加予定で、実際に参加し介護計画に組み込むことが出来るのか考えていく。ご利用者の生活が豊かになるよう取り組んでいく。	12 ヶ月
4	51	外出を喜ばれる方も多く、外食も楽しんでいる。外出は家族からの要望が多い内容でもあり、日々の生活の中で散歩や外出を増やしていきたい。	月1回の外出レクの他、希望される外出を出来るだけ実施していく。	家族、友人、地域の協力も得ながらご利用者が満足して頂ける取り組みをしていく。	12 ヶ月
5	4	運営推進会議の参加が限られている。一人でも多くの方に会議に参加して頂きたい。	参加人数を増やし、運営推進会議の充実を図りたい。	都合の良い開催日、時間を参加者に尋ね、毎回同じ時間帯ではなく参加可能な日程調整を考えていく。	12 ヶ月

優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
6	35	開設1年目で看取りの経験はないがアンケートを実施し「最後までここで」との希望もあった。終末期に対する不安を取り除く為に研修の機会を設ける。	終末期ケアをご利用者、家族、職員が不安なく実施できる。	主治医、看護師の協力の下、ご利用者や家族の意向確認を場面、場面で実施し話し合いをこまめに行う。また、スタッフ研修を実施しレベルの向上に努めていく。	12 ヶ月
7	37	災害対策に備え備蓄や地域との協力体制を検討していく。	災害時に施設が避難場所となれるよう訓練や備蓄をしていく。	定期的な消防避難訓練に加え災害を予測した訓練も取り入れていく。備蓄については事業所だけではなく法人全体で考えていきたい。	12 ヶ月
8	38	ゆとりがない時に業務優先になり、口調が気になるときがある。職員の良いところを引き出しながら、職員の意識向上に努めていく。	全職員がご利用者に対し尊厳ある対応ができる。	日頃のケアで気になるところがあれば職員間で注意しあえる関係作りを行う。外部研修参加で意識向上を図る。	12 ヶ月
9	10	ご利用者は「ここで生活させてもらっている」、家族は「面倒をみてもらっている」との思いがあり十分な意見を聞き出せていないと考える。何でも言える環境作りをしていきたい。	ご利用者、家族と意見・要望を遠慮なく言える人間関係作りをする。	運営推進会議や面会時に意見・要望がないか都度確認を行うことで関係構築を図っていく。	12 ヶ月
10	8	権利擁護は今後、必要とされる方が増えると考えられる。家族にも説明でき体制を整えていく。	全職員が権利擁護を理解する。	成年後見制度のパンフレットを準備し必要とされる方に説明をする。勉強会や外部研修で制度を学び研鑽する。	12 ヶ月
11					ヶ月